

2007 年度

北海道IBD **運動方針**

「会員同士の出会いと語らいの場」を大切に、友の会は「お互いの顔の見える、離れていても近況を感じられる、会員の意見交換が進む」活動方針を掲げ、事業をします。

1、創意的な活動で会員の要望に応えましょう。

近年ネットや書物からの情報に満足し、また患者会のことを知らないため患者会に入会されない方も増えています。一方入会された動機は「同じ病気の方と話したい」です。この要望に細やかに対応するため、「就職」「母親」「料理」「交流」などテーマや開催場所を多様化させ、病気を抱えながらくらす智恵の交流を進め出会いを楽しみましょう。企画参加者数だけではなく内容を更に高めるようにしましょう。

2、みんなの要望を明確にし、具体化して各方面への要望を強めましょう。

去年は「特定疾患制度の見直し」があり大きな運動を会員の皆さんと取り組みましたが、引き続き押し留めること、また新薬開発や新治療法の開発と普及など国や自治体への要望を明確にし、また札幌市を始め各地の保健所と共同で患者交流会を目指しましょう。IBD 患者の身体障害者適用拡大の取組を検討し、病名告知初期の患者支援を強化しましょう。

3、広い北海道、狭い日本、どこでも楽しく北海道IBDの仲間と会いましょう。

5つの地方支部の運動を盛んにし、またこの間着実に実現している支部のない地域での患者交流の機会（サテライト集会）を更に作りましょう。各地会員の交流や、「紙面参加」などの機会を増やしましょう。

3、病気に対する正しい知識を学び、それを生かして実践しましょう。

進歩している医療、絶えず変わる社会保障制度の勉強会を繰り返しましょう。北海道IBDの伝統である料理教室や新入会員オリエンテーション、「IBDブックレット」などで「食事療法」「気持ち切替え療法」を全支部でも広めましょう。

4、全国の仲間、北海道難病連や世界の仲間と連帯を強めましょう。

バザーやレク活動など北海道難病連の行事へ積極的に参加し、他の難病の仲間にも視野を広げましょう。

IBDネットワークとともにすすみ、全国規模でIBD患者の要望実現を目指しましょう。